

科目ナンバリング		U-LAS03 10006 SB48										
授業科目名 <英訳>		外国文献講読（法・英） I-E1 Readings in Humanities and Social Sciences (Law, English)I-E1					担当者所属 職名・氏名		法学研究科 教授 岡田 陽平			
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)		外国文献研究			使用言語		日本語	
旧群	C群	単位数	2単位		週コマ数	1コマ		授業形態	演習（対面授業科目）			
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	水2			配当学年	2回生以上		対象学生	全学向	
[授業の概要・目的]												
国際法とは、国際社会の法、すなわち、主として国家間関係を規律する法である。その重要性は容易に理解されるだろう。しかし、ウクライナやガザの状況に言及するまでもなく、国際法が国際社会に平和と安全をもたらすことに成功しているとはいえない。本講義は、比較的平易な英語概説書の講読を通じて、国際法とは何か、どのように機能しており、またどのような限界があるのかについて、具体的な事例に即して学ぶことを目的とする。 履修にあたり特別な前提知識は求めない。もちろん、国際法に興味関心がある者の履修を特に歓迎する。												
[到達目標]												
・外国語の専門書を適切に読解し、これを的確に和訳したり説明したりするための知識や表現力を身につける。 ・国際法の解釈適用をめぐって実際に国家間に生じた争いを紐解き、それがどのように解決された（されなかった）かを学ぶことで、国際社会で通用する法的思考力を涵養する。												
[授業計画と内容]												
文献：Anthony Aust, Handbook of International Law (2nd ed., Cambridge University Press, 2010). 第1章（Introduction）から読み進めるが、一部の章をスキップすることがある。 第1回 導入 各回の和訳担当者を決める。また、国際法の基礎的な知識も伝達する。 第2回～第14回 文献講読 各回の担当者は、事前に和訳を提出することが求められ、これをまとめたものを、予め授業資料として配付する。教室では、まず担当者が自身の和訳内容を報告し、それをもとに、教員と担当者、さらに他の受講生との間で、和訳の正確性や文章の内容理解といった観点から議論する。 期末試験 論述試験を行う。英文和訳問題と文献の内容に関する説明問題とを出題する。 第15回 フィードバック 具体的な方法は、別途連絡する。												
[履修要件]												
外国文献講読（法・英）は専門への導入コースなので二回生以上を対象とする。												
[成績評価の方法・観点]												
期末試験：70% 平常点（担当回での和訳提出の有無・時期・内容、教室での質疑への対応状況を考慮要素とする。担当回以外では、教室での議論への参加状況を考慮する。）：30% 外国文献講読（法・英）I-E1(2)へ続く↓↓↓												

外国文献講読（法・英）Ⅰ-E1(2)

[教科書]

Anthony Aust 『Handbook of International Law, 2nd ed.』（Cambridge University Press, 2010）ISBN:978-0-521-13349-4（授業で扱う部分を電子化し、授業資料として事前に配付する。）

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

和訳は、日本語の文章として意を尽くしたものとなるよう、努力を怠らないこと。

[その他（オフィスアワー等）]

和訳のやりとりのため、電子メール（携帯メールは不可）を使えることが望ましい。

この科目は法学部生を対象に開講される科目です。履修人数に余裕があれば、法学部以外の学生も履修することが可能ですが、法学部事務室で事前申込が必要です。詳細は履修（人数）制限に関するお知らせで確認してください。

[主要授業科目（学部・学科名）]

法学部